

105 号 地域開発みちの会



みちの会だより

<http://www.aichi-michinokai.com/> 発行責任者 森 紀代美

第 34 回 地域開発みちの会 フォーラム

「性差別をなくすために私たちは行動する」

～ジェンダー平等に関するアンケート結果から～



2023 年 1 月 22 日（日）13:00～16:00

東海市立市民活動センター大会議室

参加 44 名（会員 28 名）

1 開会挨拶 地域開発みちの会会長 森紀代美

2 来賓挨拶 佐々木菜々子愛知県副知事（一部紹介）



「ぜひ、アンケートに協力いただいた市町村にもフィードバックして、周りの状況を確認しながら、地域で男女共同参画に取り組んでほしいと思っています。」

「最後に、『今回のアンケートで終わりではなく、このフォーラムで次からどういうことに取り組むのか考えてほしい』と、会長の先ほどのご発言もありました。ぜひ、皆さんで話し合っ、いろいろなアイデアや課題の掘り起こしをして、また私たちに聞かせてほしいと思っております。」

3 地域開発みちの会活動紹介

4 ジェンダー平等に関するアンケート調査結果・提言の発表（森紀代美・間瀬結子）

- | | |
|-----------|---------------|
| ①行政の組織・体制 | ②人権 |
| ③職員の理解・協力 | ④女性管理職・女性リーダー |
| ⑤ジェンダー教育 | ⑥男女共同参画ですから |
| ⑦課題解決のために | ⑧官民連携の必要性 |

5 参加者による意見交換会

6 グループ発表

7 終わりの挨拶



《意見交換会より（グループ記録抜粋）》

・県内の女性団体がまとまってアンケートに取り組んだことは、大変な作業だったが、良かった。地域の問題点も分かったので、行政に提案していきたい。



・このアンケートの取組みは、他市町村の比較が出来たことで、行政も動き出した。問題が可視化され、外部からの刺激と共に拡りをみせている。

・市町村議員は行政に関して熟知している。女性問題に理解がある地元の議員に、今回のアンケート調査結果・提言書を示し「どこから変えていくことができるのか」アドバイスや橋渡しを求めるとよい。また、議員にとっては、市民視点からの提言は大きなサポートとなる。足元の議会に興味を持ち、議員を知り、一票を投じよう。

・男女共同参画社会の実現には、まず女性自身が強くなり発言し、行動していくことが大切である。決定できる人に働きかけることも必要である。そして、女性が議員になることである。

・女性に人気の職場は、求人倍率が高いという結果がでている。女性が働きやすい職場は、男性にとっても働きやすい職場。増えることを期待したい。

・今まで多くの時間や労力をかけ、ストレスを受けながら男性の意識を変えようとしてきたが、我々世代の男性にジェンダー平等の意識を持ってもらう事は難しかった。比較的ジェンダー平等の意識の高いZ世代の人達を育成する方向にシフトすべきではないか。

・今回のアンケート集計を使用して、出前講座を行っていくのが望ましい。そのために、会員はコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力のスキルアップをしていきたい。

・行政や議員・市民たちが、誰でも本音で語り合える開かれた場を設けることが必要。地縁を超えたネットワークは、ジェンダー平等社会を進め、ひいてはまちづくりの新しい推進力となる。

愛知県下54市町村にアンケートを実施し、アンケート結果から作成した提言書を佐々木副知事に提出しました。

フォーラムでは、アンケート結果と提言書の内容を発表しました。発表の後は、アンケート結果からみえてきたジェンダー平等社会の実現へ向けての問題点や課題・解決策などを、議員・行政・女性団体・市民が集まって意見交換をしました。参加者それぞれの立場からの活発な意見交換が行われました。

アンケートをまとめて終わりではなく、今後活用できるようにしていきたいと感じました。

《今後の予定》

地域開発みちの会総会

日時:4月14日(金)午後

場所:東海市立市民活動センター

《ホームページ》

ご意見お問い合わせはこちらどうぞ

<http://www.aichi-michinokai.com/>



◆ 大寄 暁美 議員紹介 ◆

愛知県美浜町議会議員



政治は男のものではない

—政治にもっと多様な意見を—

2019年春、私は、美浜町議会議員の選挙に出馬しました。

思い立ったのは、同年1月下旬。「今が絶好の時期かも、挑戦しなかったことを後悔したくない」と。

友人たちに決意表明し協力を求め、大急ぎで後援会を設立（県に書類を提出）、写真撮影、リーフレット作成。

それからは、昔のスーツを着て（笑）、先輩方や友人ら（以下仲間）とひたすら個別訪問し、後援会への入会をお願いする日々が始まりました。もちろん、仲間も私以上に頑張っており、入会者を集めてくれました。そして、入会者を増やす活動と同時に、選挙に向けて、車の看板やマイク、はがきやポスターの印刷、選挙事務所の準備をしました。

「やはり議会に女性が必要だね」という声を頂いたり「手伝います」と仲間が増えたり、これらのことだけでも挑戦した甲斐があったと感じました。

告示日に立候補届を出し、5日間の選挙活動が始まりました。選挙カーでの活動、ポスター張り、はがきの発送、電話による投票依頼、事務所の留守番、個人演説会の準備など様々な仕事を仲間の手分けしてやってもらい、ワイワイガヤガヤとお祭りのような期間でした。「楽しかったね」といまだに支援者が言ってくれます。（笑）

今考えると、これらのことを手探り状態でよくやってのけた！と仲間と自分を褒めたい。

議員になるにあたり守るべきことは、「子ども、高齢者、障がい者、女性など弱者に寄り添い、声を町政に伝えること」「女性の視点を生かすこと」「町政、議会を身近に感じてもらうこと」。

3点目については、（選挙の時は大騒ぎするのに…）町政や議会に関心がない人が多いと感じたことと議会や議員の活動を知ってもらい立候補する女性を増やしたいという思いから、議会ごとに毎回会報を発行した原動力となっています。

私は特別な人ではなく、そのことにとときどきへこむけれど（笑）、議員は特別な人になるわけではないと思っています。様々な人が集まっているからこそ、様々な意見が出て、様々な方の声を代弁することができるのではないのでしょうか。そうすると、やはり年齢層や性別が偏っている今の状況は、間違っていると感じます。

私でもなれたので、あなたもなれますよと言いたいです。



<https://sites.google.com/view/ohsakisatomi>

